

## [5]文學研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/2557104>

---

出版情報：文學研究. 5, 1933-07-10. 九州文學會  
バージョン：  
権利関係：

# 文學の近代的研究

文學の理論及び解釋の序論

モウルトゥン 著

東京女子高等師範學校教授

本多顯彰 譯

第 六 三 二 頁 厚 紙 裝 幀  
定 價 二 円 三 十 錢 送 料 卅 三 錢

新時代の文學研究は本書に據り出發せよ、整理せよ、發展せしめよ。

凡そ文藝科學の問題に關心をもつ人々にして、モウルトゥンの名を知らない人はあるまい。モウルトゥンはかつてシカゴ大學に於て文學理論を講じた人、その名著「世界文學」と「文學の近代的研究」の二書は、ひとり米本國のみならず、實に全世界の學界に向つて少からざるセンセーションを與へた。特に後者即ち本書は著者が四十年にわたる該博精倒なる大研究の結晶であつて、沙翁及び聖書への博き考證と深き思索との中から、つひに世界文學の概念に到達し、その見地から文學理論ならびに解釋に關する新鮮なる考察を學界に提出したるものである。彼は暗示多き幾多の圖表を示しつつ、先づ文學形態の多樣とその根柢に横はる原理とを論じ、次いで文學研究の分野と範圍とを規定し、更に世界文學の歴史に反映したるものとしての文學の展開を明かにし、更に又文學批評に於ける傳統的混亂と近代的復興について論じ、最後に哲學及び藝術の一様式としての文學について明快なる省察を試みてゐる。かつて一度び我國に本書が紹介せらるるや、これによせられたわが學界の信頼と讃仰とはむしろ驚異すべきものがあつた。モウルトゥンこそは、幼きわが日本文學理論に健實なる動向を指示しその正しき成長を助けた恩人である。今や本書のよき全譯が、完成し、何人も容易にその深き示唆と暗示とにふれることが出来るやうになつたのは、眞にわが學界の慶事と云はねばならぬ。一般文藝科學の諸問題に關心を有する人々の熱心なる愛讀を希望してやまない。

岩波書店

東京市神田區 振替東京二六二四〇  
一ツ橋通町 電話九段一八七(4)